

SysMdlMemoryReduction パラメータ、フェールオーバーおよび CDR 間の相互関係

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[説明](#)

[コール CDR生成の終わり](#)

[イベントベースの CDR生成](#)

[1060 の CDBs は時々失われます](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、SysMdlMemoryReduction パラメータ、フェールオーバー、および呼詳細レコード (CDR) 間の相互作用について説明します。 PGW で CDR を生成するには 2 つの方法があり、それぞれの方法では Cisco PGW 2200 の CDR にタグを入力する独自の技術を使用します。

前提条件

要件

このドキュメントを読む人は Call Detail Block (CDB) 説明のナレッジがあるはずです。それ以上の PGW 情報に関しては [Cisco Media Gateway Controller ソフトウェア リリース 9 シスコのドキュメント](#)を参照して下さい。

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は [Cisco PGW 2200](#) に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

説明

これらの行は /opt/CiscoMGC/etc/XECfgParm.dat ファイルにあります:

```
engine.SysMdlMemoryReduction = 1
*.LongCallTime = 21600000
engine.CDRmessageTypes = "1010,1020,1030,1040,1050,1060,1070"
```

デフォルト設定に関して、[XECfgParm.dat ファイル パラメータ 資料](#)を参照して下さい。

コール CDR生成の終わり

この方式では、タグはコールの終わりにだけ CDB 1110 に書かれます。従って、すべての CDR 情報はコールの終わりまで維持され、すべての CDR 情報はスタンバイにまたチェックポイントです。この方式では、情報は CDB 1060 が書かれているとき利用できます。従って、すべてのタグはフェールオーバーの前後に CDB 1060 で正しく読み込まれます。

イベントベースの CDR生成

この方式では、顧客はコールのさまざまなステージで CDR 情報を受け取ります。PGW は CDBs の生成を引き起こすことができる複数のステージをあらかじめ定義します (リリースされる答えられた、長い期間等)。設定することができるさまざまな CDBs は 1010、1020、1030、1040、1050、1060、1070、および 1080 です。タグが CDB に書かれていれば、非本質的な情報であることを考慮します; PGW はスタンバイにチェックポイント非本質的な情報。CDB 1060 のタグは CDB 1010 に既に書かれていたので非本質的な情報です。フェールオーバーが発生すれば、新たにアクティブなシステムはそれらがチェックポイントではなかったため、非本質的な情報を知りません。従って、それは空タグで CDB 1060 を作成します。

1 に XECfgParm.dat ファイルの **engine.SysMdlMemoryReduction** パラメータを設定した場合、非本質的な情報はアクティブ PGW でタグが CDB に書かれていた後削除されます。そのパラメータのための 1 値はコールごとのメモリの最適な使用方法のために推奨されます。

上記のパラメータが 0 に設定された場合、CDB 1060 のタグはスタンバイ状態のシステムでだけ空です。

1060 の CDBs は時々失われます

コールが応答されれば、長い期間 タイマーはアクティブおよびスタンバイ状態のシステム両方で開始します。タイマーがアクティブシステムで切れる時はいつでも、PGW は CDB 1060 を書き、タイマーを再起動します。スタンバイ PGW はタイマーだけを把握し、CDR を書きません。フェールオーバーの後で、新たにアクティブな PGW は CDRレコードを書き込みます。

これはそのシーケンスの例です:

1. コールは 8:33 で応答されます。
2. 30 分の長い期間 タイマーは 8:33 のアクティブな、スタンバイ PGW で開始します。
3. フェールオーバーは 9:02 に発生します。それはアクティブになるためにスタンバイ PGW のための秒のカップルを奪取します。
4. 長い期間 タイマーが切れることアクティブ PGW はほとんど同時に停止します。従って、

それは 9:03 で 1060 CDB を書くことができません。なお、9:03 で、スタンバイ PGW はアクティブ PGW に移行して、完全にアクティブではありません。アクティブだけ PGW 1060 CDB を作成するので、この CDR は失われます。

5. 9:33 で、長い期間時間は再度切れ、the1060 CDB は新たにアクティブな PGW によって作成されます。

CDB 1060 が長い期間 タイマー満了とフェールオーバー プロセス間の競合状態によるフェールオーバーの間に失われてなることができることは可能性のあるです。

注: フェールオーバーが (たとえば、9:05 で) 他の時にも起これば、競合状態がないし、CDB は失われません。

関連情報

- [PGW 2200 テクニカルノート](#)
- [Cisco シグナリング コントローラ コンフィギュレーション ガイド](#)
- [ボイステクノロジー](#)
- [ボイス、テレフォニー、およびメッセージング デバイス](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)